

AC8 危ない！海の仲間を救え

実施のしかた（PDF）

1. 机のまん中に生活のなかで見られる身近なゴミを置きます。

机の中央にひもやテープで線を引き、まん中に生活のなかで見られる身近なゴミを置きます。スーパーのレジ袋、発泡スチロール、ビニールや紙製の容器、空き缶などの他、割り箸や使用済のお茶の葉（ティーバック）、くだものの皮や野菜かすなど自然のなかで分解できるものも入れます。枯葉や木の実など、自然界にあるものも入れておきましょう。

2. 海に流れ着いたとき、海の生物にとって「害になると思うもの」と「害がないと思うもの」に分けます。

机に置かれたゴミを「害になると思うもの」と「害がないと思うもの」に分けます。分け終わったら、それぞれのなかから気になるものを選び、その理由を参加者にインタビューします。

3. 海洋生物に害が大きいものをいくつか説明する。

スーパーのレジ袋や発泡スチロールなど、海洋生物に害が大きいものをいくつかとりあげ、指導者がその理由を説明します。

4. 危険がないと思われるゴミに対してもどのように扱ったらいいのかを考えます。

「害がないと思うもの」に分けられたゴミについて、改めて捨てるでも良いのかを参加者に問いかけ、一緒に考えます。人間が手を加えたり移動させたりしたものは、むやみに捨てる生態系に影響を与える可能性があることなども伝え、ゴミ全般に対する意識を高めます。

5. 漂着ゴミが海の生物に与える影響を「みんなの問題 海のゴミ」を使って説明。

一般社団法人 JEAN では、海洋漂着ゴミの現状と問題点を子どもたちにも分かりやすくまとめたパネル「みんなの問題 海のゴミ」を貸し出しています（貸出料 2,160 円＋往復送料実費利用者負担）。パネルを使って、海に流れ出たゴミが自然や海辺の人の暮らしに与える影響について解説します。

6. 好きな海の生きもの絵を描いたエコバックをつくります。

海の生きものとの楽しい体験（事前に行った海の生きもの魅力を学べるプログラムやフィールド体験）を思い出し、布製のエコバックに布製クレヨンで好きな海の生物の絵を描きます。海から離れて暮らしていても「毎日使う水道の水」で海とつながっていることを忘れず、海の生きものが喜ぶような生活をしてほしいことを伝え、エコバックを持ち帰ってもらいます。